資料１

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

平成３０年７月２５日
九州地方整備局

道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）の実施について

○　国土交通省道路局では、道路に関して、法令等の改正につながるもの、先進的・斬新な施策について、当該施策を本格実施するにあたり、現地で市民等の参加のもと、効果や影響を確認するため、場所と期間を限定して試行・評価する現地実証実験を公募により平成１１年度から実施しております。

○　平成３０年度においても実験を実施する地域を公募し、九州地方整備局管内では、以下の実験が採択されましたので、お知らせします。

申請団体	実験名	実験概要
佐賀県 佐賀市	2023 佐賀国体を見据えた、安心して楽しく歩ける「おもてなし空間」整備のための社会実験	歩行者と自転車が輻輳している区間において、歩行者と自転車を分離するため、現行の４車線を減じ道路空間を再構築した場合の影響・効果を検証する。
佐賀県 鹿島市	重点「道の駅」鹿島を中心とした外国人にもやさしい観光周遊に関する実証実験	重点「道の駅」鹿島において、機能強化（駐車場の運用改善、的確な情報提供）を図るため、「パークアンド循環バスライドの導入に伴う専用駐車場の設置」、「インバウンド観光に留意した情報発信機能強化（５カ国対応の見える通訳機）」に関する社会実験を行う。
大分県 杵築（きつき）市	JR 杵築駅を起点とした城下町と海辺の道自転車活用推進実証実験	JR 杵築駅から城下町を通じ、日本風景街道である国道 213 号沿線へ向かう周遊ルートを構築するため、レンタサイクルによるモニターガイドツアーの実施し、効果検証を行う。

○　社会実験については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html

＜問い合わせ先＞
九州地方整備局　道路部　道路計画第二課
課　　長　　松元　勝美
課長補佐　　松木　厚廣
TEL092-471-6331（代表）
TEL092-476-3530（直通）

国土交通省

平成30年度社会実験実施地域について

・平成30年度に実験を実施する地域を公募し、13地域を採択しました。

平成30年度　選定実験一覧　及び　問い合わせ先

実験の名称	申請団体
道路空間の利活用と民間活力活用による持続可能な観光貸切バス停車のエリアマネジメント実証実験	北海道札幌市
東北中央道と「道の駅」の活用による地域活性化社会実験	福島県福島市
新宿駅東口地区　賑わい創出・物流効率化の複合型プロジェクト	東京都新宿区
既成観光市街地における自転車施策の推進に関する社会実験	埼玉県川越市
荒川パーキングを活用した地域活性化社会実験	新潟県村上市
東海道「箱根八里」における自転車利用環境創出社会実験	静岡県三島市
直接埋設方式による電線地中化の常設作業帯のコンパクト化に関する実証実験	京都府京都市
奈良公園周辺の渋滞緩和に向けた社会実験	奈良県
石見銀山遺跡における低速モビリティと歩行者等との安全で快適な通行空間の確保に関する社会実験	島根県大田市
クルーズ船寄港地観光に対応した道の駅「なかとさ」機能強化検討社会実験	高知県中土佐町
2023佐賀国体を見据えた、安心して楽しく歩ける「おもてなし空間」整備のための社会実験	佐賀県佐賀市
重点「道の駅」鹿島を中心とした外国人にもやさしい観光周遊に関する実証実験	佐賀県鹿島市
JR杵築駅を起点とした城下町と海辺の道自転車活用推進実証実験	大分県杵築市

資料２

市道三溝線再整備検討会規約

（設置）

第１条　佐賀駅北側エリアにおける街づくりや交通ネットワークの将来像を見据えて、佐賀市道三溝線の再整備に関する社会実験を実施するとともに、その結果を検証し、再整備の方策を検討することを目的として、市道三溝線再整備検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

（事業）

第２条　検討会は、次に掲げる事業を行うものとする。

（１）市道三溝線における社会実験の実施及び結果の検証

（２）市道三溝線の再整備の方策の検討

（３）その他、前条の目的達成に必要な事業

（組織）

第３条　検討会の委員は、別表に掲げるとおりとする。

２　検討会に会長及び会長代理を置くものとし、会長は佐賀市企画調整部長兼佐賀駅周辺整備構想推進室副室長を、会長代理は佐賀市道路整備課長をもって充てる。

３　会長は検討会を代表し、会務をつかさどる。

４　会長に事故あるときは、会長代理がその職務を代行する。

５　検討会の事務局は、佐賀市佐賀駅周辺整備構想推進室内に置く。

（会議）

第４条　会長は、事業について協議するため、必要に応じて会議を招集するものとする。

２　会長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

３　会議に座長を置き、座長は会議を総括する。

４　会議は、出席委員の総意をもって決する。

（会計）

第５条　検討会の運営及び事業に要する経費は、国庫支出金、佐賀市負担金及びその他の収入をもって充てる。

２　検討会の事業及び会計年度は、平成３０年５月３０日に始まり、平成３１年３月３１日に終わる。

３　事業が終了した時点において残余財産があるときは、会長が委員に諮ってその帰属を決定する。

別表

市道三溝線再整備検討会　委員名簿

委員

所属・役職	氏名	備考
佐賀市企画調整部長 兼佐賀駅周辺整備構想推進室副室長		会長
佐賀市道路整備課長		会長代理
佐賀大学芸術地域デザイン学部教授		座長
国土交通省佐賀国道事務所長		
神野自治会長会会長		
三溝自治会長		
三溝自治会		
新家自治会長		
新家自治会		
草場区自治会長		
草場区自治会		
駅東自治会長		
八丁畷自治会長		
八丁畷自治会		
佐賀県立佐賀商業高等学校教頭		
佐賀市立神野小学校長		
佐賀市立成章中学校長		
佐賀県道路課副課長		
佐賀県都市計画課副課長		
佐賀北警察署交通課長		

事務局

佐賀市佐賀駅周辺整備構想推進室

資料３

市道三溝線再整備検討会　予算書

平成３０年度の市道三溝線再整備検討会の予算を次のとおり定める。

◎収入の部　　千円

項目	予算額	説明
1 国庫委託金	２，９９２	国土交通省道路局
2 佐賀市負担金	４４	
計	３，０３６	

◎支出の部　　千円

項目	予算額	説明
1 調査費	２，９９２	社会実験の調査検証及び検討会の企画運営
2 予備費	４４	
計	３，０３６	

資料４

2023 佐賀国体を見据えた、安心して楽しく歩ける

「おもてなし空間」整備のための社会実験

実施計画書

（案）

平成３０年９月

市道三溝線再整備検討会

目　次

1　実験の目的

1－1　実験地域の概要 …… 1

1－2　実験を実施する背景 …… 2

1－3　実験の目的 …… 4

2　組織体制

2－1　検討組織 …… 5

2－2　社会実験の実施体制 …… 6

2－3　緊急連絡体制 …… 7

3　社会実験の実施計画

3－1　実施区間 …… 8

3－2　実施日時 …… 8

3－3　交通規制の概要 …… 9

3－4　事前周知・広報 …… 10

3－5　安全対策 …… 11

4　各種調査計画

4－1　交通量調査 …… 12

4－2　渋滞長調査 …… 12

4－3　自転車通行位置調査 …… 12

4－4　通行者ヒアリング …… 12

4－5　沿線住民・学校ヒアリング …… 12

4－6　目視による交通状況の把握 …… 12

4－7　関係者への取材調査 …… 12

5　社会実験結果を受けた検証方針

5－1　検証方針 …… 14

5－2　検証手法 …… 14

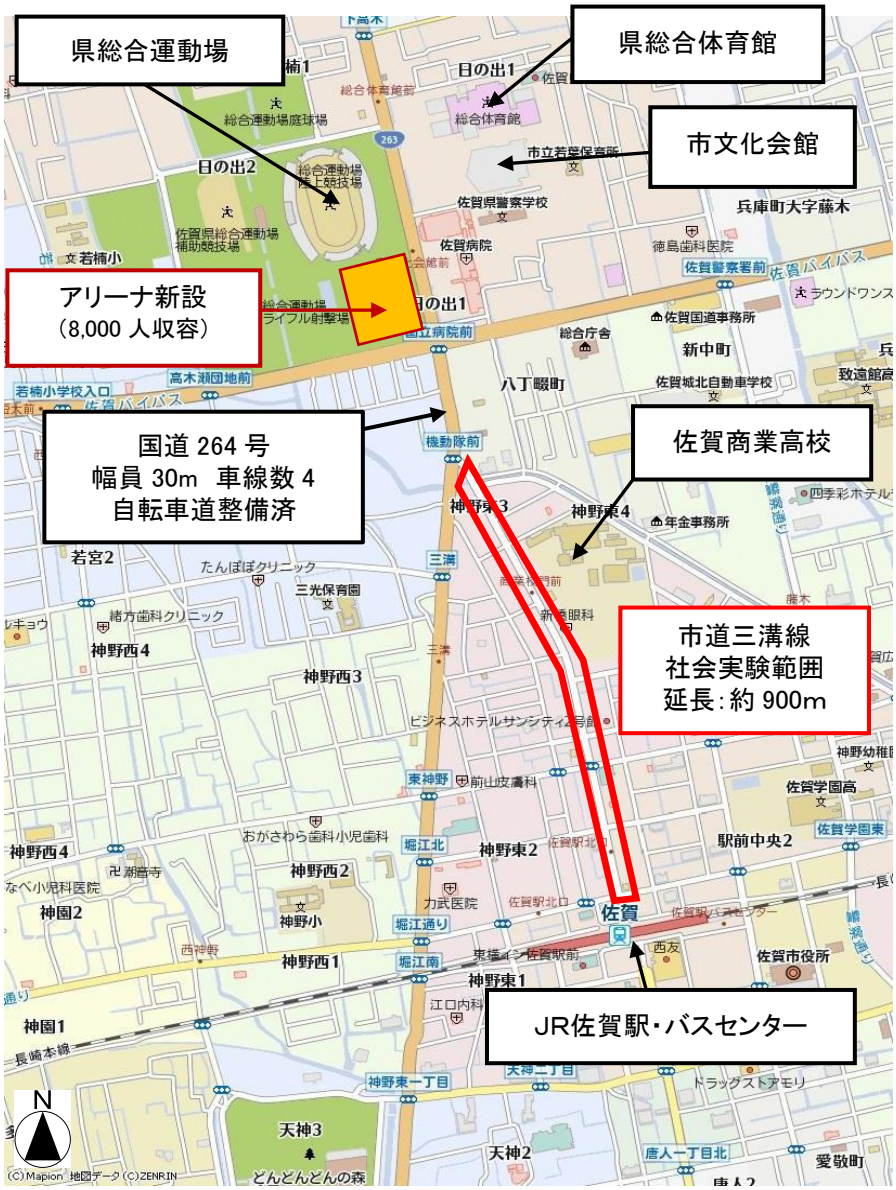
１　実験の目的

１－１　実験地域の概要

市道三溝線は、佐賀駅北口を起点として国道 264 号を終点とする延長約 900m、幅員 20m で４車線の幹線道路であり、佐賀駅へのアクセス道路の位置付けである。ＪＲ九州管内で第 10 位（約 12,000 人）の乗車人員を誇る佐賀駅に向けて、多数の通勤・通学者が利用している。

また、沿線には県立佐賀商業高校が所在し、駅から多数の生徒が徒歩で通学利用している。

終点北側のエリアには、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（2023 年）のメイン会場となる県総合運動場や県総合体育館、さらには市文化会館などが集積する、県内随一のスポーツ・文化ゾーンとなっている。市道三溝線は、このゾーンへのアプローチの役割も担っている。



また、沿線地区は近年、福岡都市圏への通勤需要等を背景に、マンション等の建設が進み、人口増加が著しいエリアであり、街なか居住が進展している。

◆沿線地区人口（神野東 2･3･4 丁目、駅前中央 2 丁目）

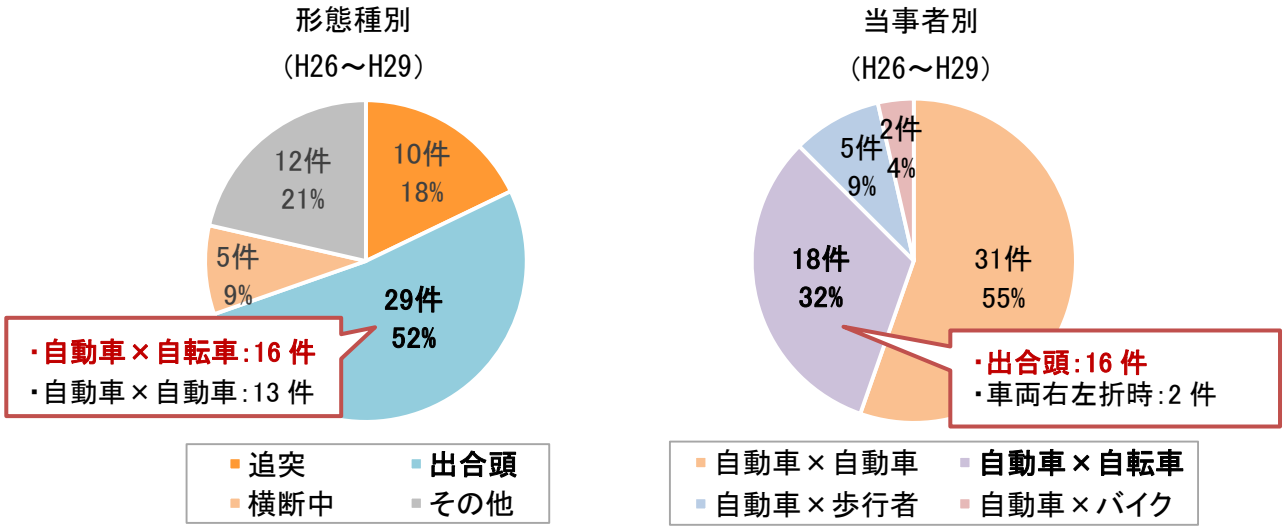
H20. 2	H30. 2	増加数（率）
2, 077 人	2, 358 人	281 人（13. 5%）

１－２　実験を実施する背景

市道三溝線は、通勤・通学利用者を中心に、多くの歩行者・自転車が通行している。通勤・通学時間帯には、特に佐賀駅に直結する東側の自転車歩行者道（自歩道）で、歩行者と自転車が輻輳し、歩行者を避けようと自転車が車道に飛び出してくる状況も生じている。

また、沿線の生活道路から市道三溝線に進出しようとする自動車が、自歩道上で左右から来る自転車と衝突する事故も発生している。

◆市道三溝線の事故発生件数　　※佐賀北警察署からの提供資料に基づき作成



通勤・通学利用が多い同路線は、平成 28 年度に策定した「佐賀市自転車利用環境整備計画」において、自転車利用環境ネットワーク路線のうち、“短期整備路線”に位置付けている。

また、総合運動場でスポーツイベントが開催される週末などには、多くのイベント参加者が、駅から会場まで徒歩で市道三溝線を移動している。総合運動場までの移動距離は、約１．４ｋｍで、所要時間は約 18 分（分速 80ｍの場合）である。

◆スポーツイベント前後の市道三溝線

2023 国スポ等を見据え、佐賀県が県総合運動場南側にアリーナ（8,000 人収容）新設を計画している。同施設の周辺には、新たな専用駐車場の整備は計画されておらず、来場者に対して公共交通の利用や、駅からの徒歩・自転車による移動を促していくことが必須課題となっている。

こうした中、佐賀市による駅前広場の再整備計画（南北方面への誘導のための動線再整備の検討）や、民間事業者によるシェアサイクル事業など、鉄道で佐賀駅に降り立った来街者を、街なかへと円滑に誘導するための取組が始まっている。

このため、会場へのアプローチである市道三溝線についても、これらの取組と呼応しながら、距離感を感じさせず、楽しく徒歩で移動できる歩行空間を確保し、来街者を駅から会場まで円滑に誘導する施策を展開することが重要となっている。

さらには、街なか居住の進展を受けて、子育て世代や高齢者など、住民・市民が安心して歩くことのできる、都市生活の基盤となる快適な道路空間の構築が期待されている。

一方で、市道三溝線は、中心市街地である駅南口方面への動線が駅で遮断されており、通過交通は少ない。このため、現行４車線に対して、自動車交通量は余裕がある状態となっている。

◆モード別交通量

自動車	7,343 台
自転車	842 台
歩行者	1,974 人

※H29.10.11（水）12 時間調査

市道三溝線（４車線）

１－３　実験の目的

街なか居住の進展やアリーナ新設による歩行者の増加を見据えて、安心して楽しく歩ける歩道空間の整備が重要となっている。

このため、自歩道内での歩行者・自転車の混在解消に向けて、自転車専用の走行空間を整備することが有効である。

今回の実験は、現行４車線の一部を自転車走行空間に変更することによる交通への影響及び効果を分析し、今後の再整備の方策を検証することを目的とする。

本実験を通じて、道路空間の再構築を実現し、来街者をはじめ通勤・通学利用者、沿線住民など、多様な利用者ニーズに対応した道路空間を創出するとともに、既存幅員内での自転車利用ネットワーク路線整備の先駆モデルとなることをめざす。

２　組織体制

２－１　検討組織

社会実験の実施計画の検討や、実験結果の検証及び再整備に関する検証を行うため、「市道三溝線再整備検討会」（以下「検討会」という。）を組織する。

◆検討会における検討フロー（予定）

開催	開催日	協議内容
第１回	H30. 5. 30	現状分析、整備方針の整理、社会実験の実施方針
第２回	H30. 6. 28	現状分析、歩道の活用事例紹介、社会実験の実施方針
第３回	H30. 9. 12	社会実験の実施計画書、現場状況の合同点検
第４回	H30. 10 中旬	実験結果の検証、再整備方策の検証
第５回	H30. 11 中旬	再整備方策の取りまとめ

◆委員

所属・役職	氏名	備考
佐賀市企画調整部長 （兼佐賀駅周辺整備構想推進室副室長）		会長
佐賀市道路整備課長		会長代行
佐賀大学芸術地域デザイン学部教授		座長
国土交通省佐賀国道事務所長		
神野自治会長会会長		
三溝自治会長		
三溝自治会		
新家自治会長		
新家自治会		
草場区自治会長		
草場区自治会		
駅東自治会長		
八丁畷自治会長		
八丁畷自治会		
佐賀県立佐賀商業高等学校教頭		
佐賀市立神野小学校長		
佐賀市立成章中学校長		
佐賀県道路課副課長		
佐賀県都市計画課副課長		
佐賀北警察署交通課長		

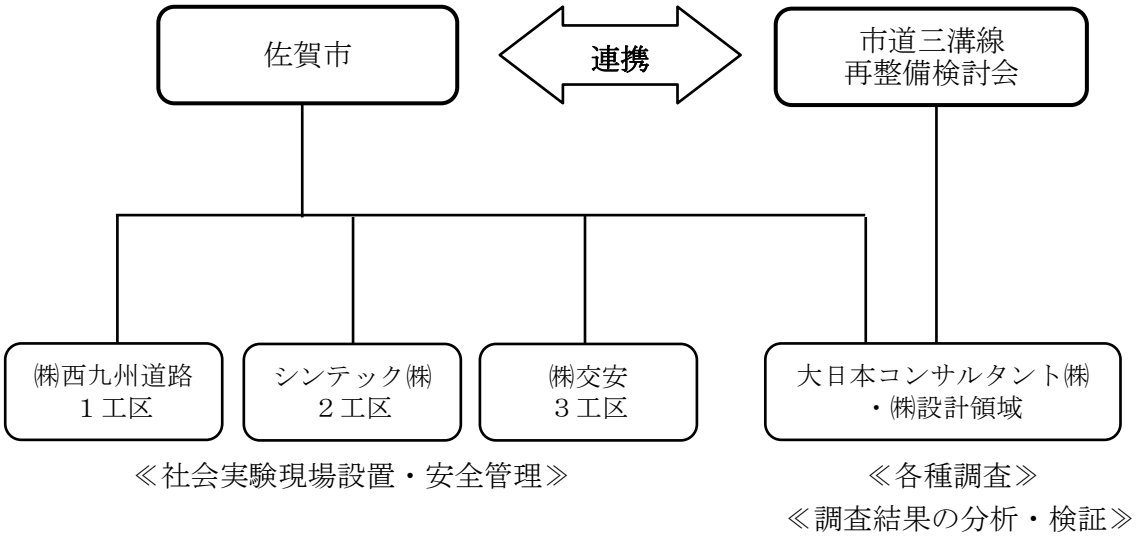
２－２　社会実験の実施体制

社会実験は、佐賀市と検討会が連携して実施する。

○佐賀市･･･社会実験現場設置、関係機関との調整、安全管理、各種調査

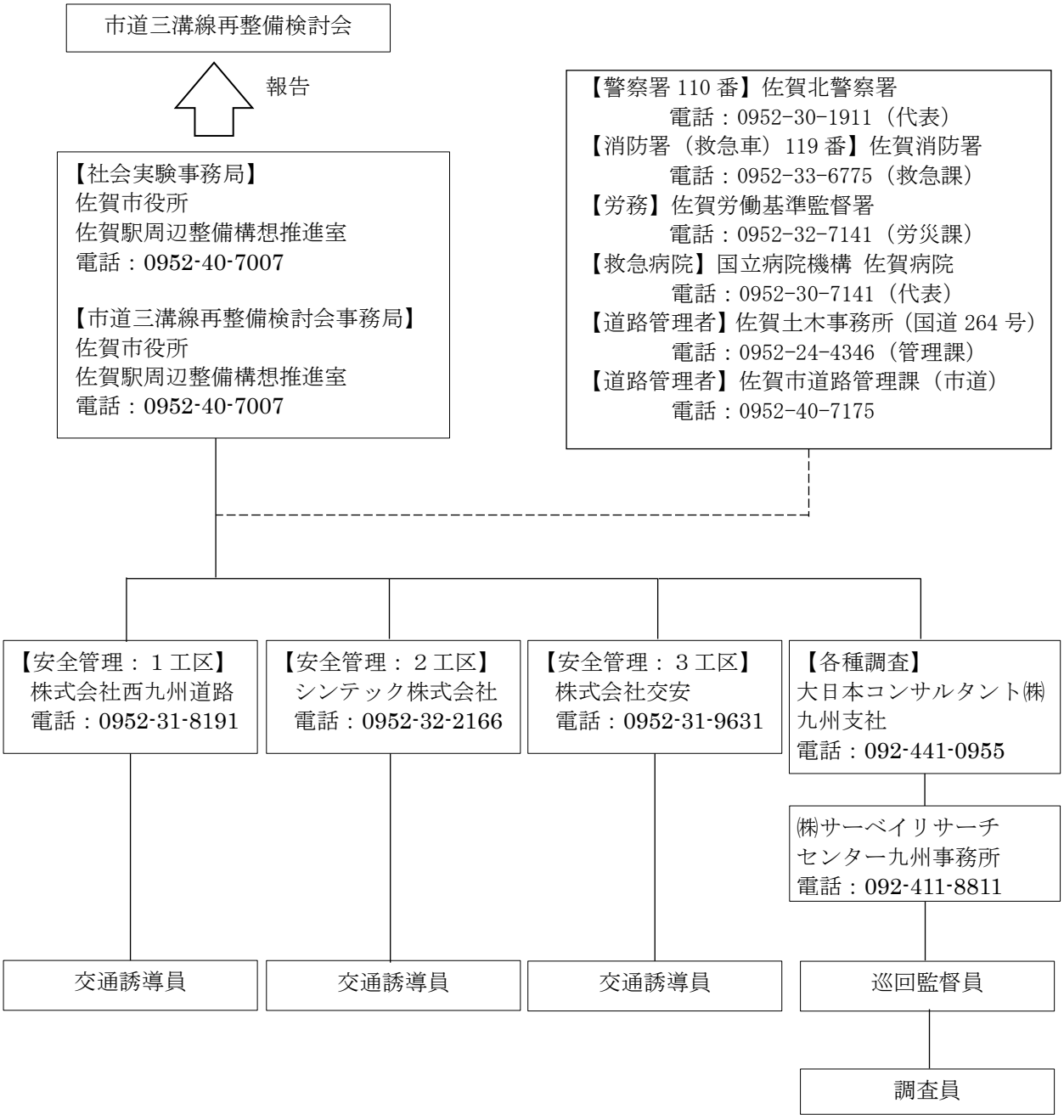
○検討会･･･調査結果の分析・検証、検証結果の取りまとめ

◆実施体制図



2－3　緊急連絡体制

社会実験期間中の緊急連絡体制は、次のとおりとする。



3　社会実験の実施計画

3－1　実施区間

市道三溝線全線（佐賀駅北口～八丁畷（機動隊前交差点））約 900mとする。

◆実施区間

3－2　実施日時

○実験期間※　平成 30 年 9 月 12 日（水）～平成 30 年 9 月 18 日（火）

○現場設置　平成 30 年 9 月 11 日（火）9:00～17:00（予定）

○現場撤去　平成 30 年 9 月 19 日（水）9:00～17:00（予定）

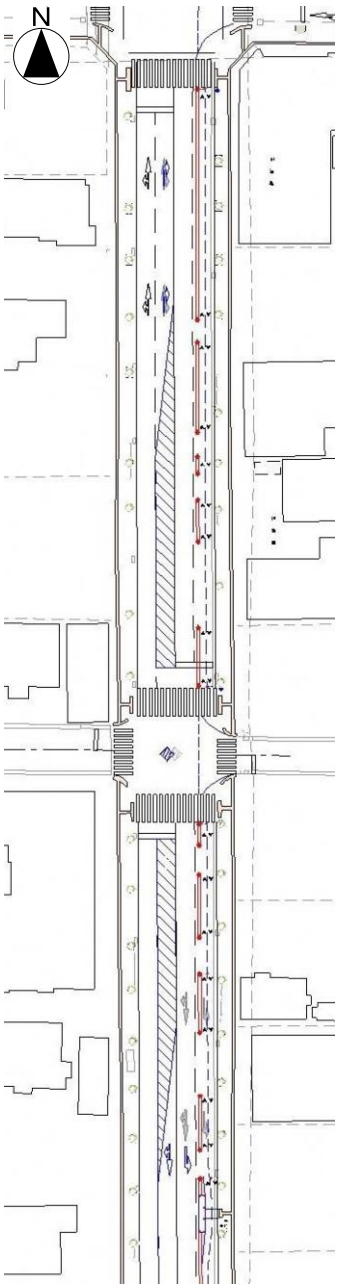
※ただし、現場設置完了時点から現場撤去開始時点まで通行規制を行う。

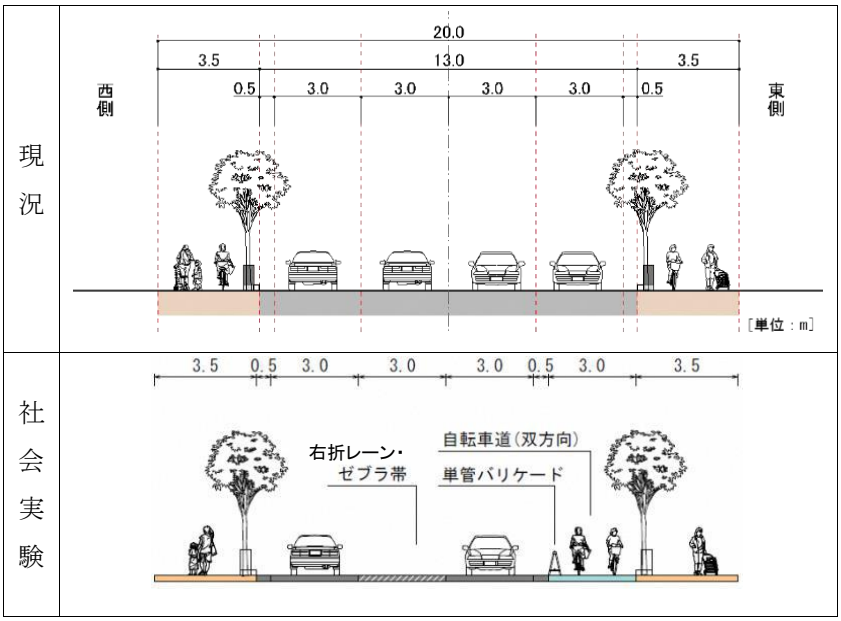
※期間中に荒天が予想される場合等には、佐賀市の判断により日程を変更する。

３−３　交通規制の概要

４車線のうち東側の１車線を自転車道（双方向通行）に変更する。
残り３車線のうち中央の車線をゼブラ帯及び右折レーンに変更する。

◆平面図・断面図・資材設置イメージ





▲

単管バリケードとラバーポールで
自転車道（双方向通行）を設置

ラインテープによる路面標示の変更

自動車誘導看板

自転車誘導看板

※社会実験は道路交通法及び道路法に基づく道路使用許可を受けて行う。

3－4　事前周知・広報

各種媒体を用いて、積極的な事前広報を行う。

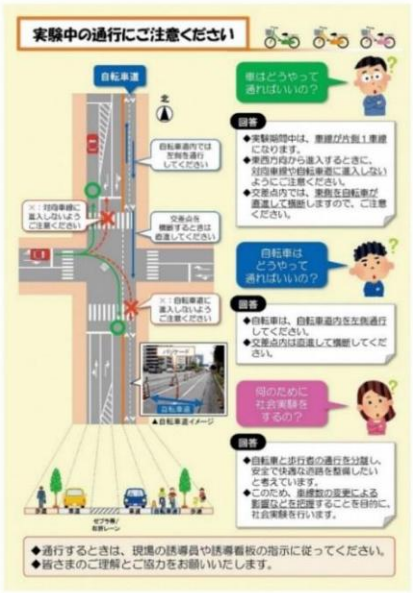
広報チラシ	沿線世帯･事業所への配布、地元中学校・高校配布、公共施設・佐賀駅等へ設置、交通事業者配布　等
広報チラシ（子ども向け）	地元小学校配布
佐賀市報（9/1 号）	全市民対象
佐賀市ホームページ	全市民対象
新聞広告	佐賀新聞、夕刊佐賀
テレビ	サガテレビ（市広報番組）、ぶんぶんテレビ
ラジオ	ＦＭ佐賀、ＮＢＣ佐賀、えびすＦＭ

※その他、佐賀市政記者への情報提供など

◆広報チラシ

（おもて）

（うら）



（子ども向け）

３−５　安全対策

社会実験期間中は、主要交差点に交通誘導員（24 時間体制）を配置し、円滑な交通誘導に努める。

また、実施区間を 24 時間の巡視体制を構築し、資材の転倒等による事故の発生を未然に防止する。

◆交通誘導員の配置計画

※ただし、時間帯ごとの通行状況（通学時間帯の横断歩道等）に応じて、誘導箇所を臨機応変に判断する。

４　各種調査計画

４－１　交通量調査

主要交差点（３箇所）で自動車・自転車・歩行者の方向別通行量を調査し、平成 29 年 10 月調査結果と比較する。

併せて、車線減少による周辺生活道路への影響（流入車両の増加の有無）を把握するため、周辺生活道路の交差点（４箇所）で自動車の方向別通行量を調査する。

（事前調査及び実験中調査）

４－２　渋滞長調査

主要交差点（２箇所３方向）において信号サイクルごとの渋滞発生状況を調査する。

４－３　自転車通行位置調査

仮設した自転車道の通行率（遵守率）を調査する。（遵守通行量／総通行量）

４－４　通行者ヒアリング

実験期間中、市道三溝線を通行中の歩行者・自転車を対象に、街頭調査を行う。

◆質問項目：普段の三溝線に対する感想、社会実験に対する感想

４－５　沿線住民・学校アンケート

実験終了後、沿線住民（三溝自治会・新家自治会の一部）を対象に、戸別配布方式（郵送回収）のアンケートを行う。

◆質問項目：普段の三溝線に対する感想、社会実験に対する感想、
自転車通行ルールの認知度、
自転車・徒歩移動への交通手段シフトに関する意識調査、自由意見

また、沿線に所在する県立佐賀商業高等学校の１・２年生を対象に、タブレット端末を活用したアンケートを行う。

◆質問項目：普段の三溝線に対する感想、社会実験に対する感想、
自転車通行ルールの認知度

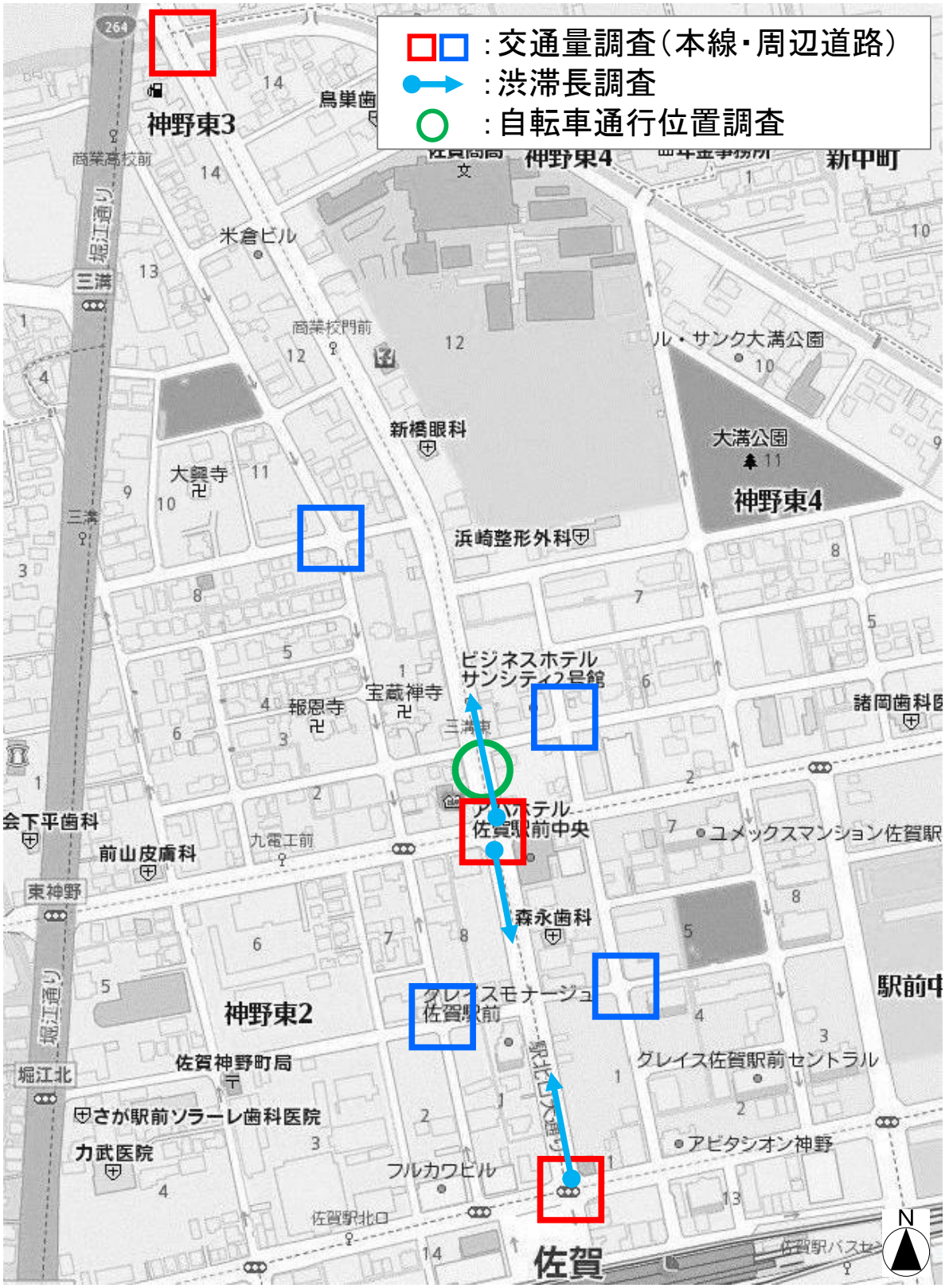
４－６　目視による交通状況の把握

実験期間中、市道三溝線の交通状況（特に通勤通学時間帯や、週末のスポーツイベント前後の状況）について、検討会事務局職員が目視による確認を行う。

４－７　関係者への取材調査

検討会における討議の進行状況に応じて、交通事業者やシェアサイクル事業者等への取材調査を行う。

◆交通量・渋滞長・自転車通行位置調査の調査地点



５　社会実験結果を受けた検証方針

５－１　検証方針

各種調査・ヒアリング結果を多角的・複合的に分析し、道路空間の再構築（車線数の見直し、自歩分離）の実現可能性及び具体的方策を検証する。

併せて、第１回・第２回検討会で事例研究を行った「歩道空間の活用方策」について、地元住民・来街者双方の視点を踏まえつつ、歩道空間の魅力向上に向けた検討を行う。また、駅前広場再整備計画やシェアサイクル等の他施策とも関連する「円滑な交通誘導の方策」についても、検証を行う。

また、周辺生活道路の状況や広域的な交通状況を踏まえながら、今後の整備段階に向けた具体的課題（交差点処理のあり方等）の整理を進める。

５－２　検証手法

各種調査結果を用いた検証手法を整理する。

○本線・周辺交通量調査、渋滞長調査、ETC2.0 プローブデータを用いて、車線再配分の実現可能性を検証

○自転車通行位置調査、通行者ヒアリング、沿線住民・学校アンケートを用いて、自転車走行空間整備のあり方及び歩行空間整備のあり方を検証

○周辺交通量調査を用いて、周辺生活道路の安全対策のあり方を検証

◆検証手法の整理

調査項目	車線再配分	自転車空間	歩行空間	周辺道路の安全対策
本線通行量調査	○			△
周辺通行量調査	○			○
渋滞長調査	○			△
ETC2.0 プローブデータ	○			
自転車通行位置調査		○	○	
通行者ヒアリング		○	○	
沿線住民・学校アンケート	○	○	○	○

注）○：直接的な関連がある調査項目
　　△：間接的な関連がある項目